地域もクマも守る
四国の社会イノベーションプロジェクト

活動地域　四国

ひろげる助成
3年目
実 践

撮影されたツキノワグマの頭数	11頭
シンポジウム参加者数	170人
今年度計画の達成度	80％
全体計画の達成度	90％

生息地外縁部で撮影されたツキノワグマ

苦労した点と工夫した点

■苦労した点
地域住民が気軽にクマの保全活動を知ることができる機会を作るために、クマ祭りと題したイベントを生息地域で開催した。出店者や講師の確保、会場準備に苦労した。

■工夫した点
シンポジウムの他に、調査体験ブースや飲食店ブース等を設けて、だれでも気軽に参加できる内容とした。多数の来場者に備えて、河原を整備して駐車スペースを確保した。

課　題
四国に生息するツキノワグマは僅か約20頭と推定され、回復傾向がみられない。早急な保全対策が必要だが、地域住民のツキノワグマへの許容度は十分に高くはない。

目　標
①地域への普及啓発、②トラブル防止の体制整備、③生息状況の把握、④ツキノワグマの保全による利益の創出により、地域がクマの生息を許容できる体制基盤を構築する。

活動内容と成果
①座談会や展示会の実施、パネル展示、チラシ配布、「木頭クマ祭り」の開催等の普及啓発を行った。生息地域の約2,400世帯を対象にしたアンケート調査の結果、「四国で生息し続けてほしい」と考える人の割合は48.5％であった
②養蜂実施者と協力して、電気柵を用いた養蜂被害対策を1か所で行った
③生息地外縁部において計3頭のツキノワグマを確認し、恒常的な生息地であることが明らかとなった
④四国のクマをモチーフにした製品が1件商品化された。四国のクマの保全をテーマにしたエコツアーを3回実施した

木頭クマ祭りの様子

エコツアー（生息地域の小学生向けに実施）

全助成期間の活動を振り返って
活動当初は飛び込み営業のようにして地域の協力者を探し歩いたが、自然関連施設や学校、行政、地域振興に関わる団体・企業等と「クマも地域も守る」という視点を共有し連携することができ、情報発信やイベント開催等を効果的に実施することができた。また、四国のツキノワグマの保全に関心を寄せる全国の方々や団体・企業等を地域と繋ぐことができ、保全活動は過疎化が深刻化する山村の地域創生にも寄与できる可能性が見出された。

〒785-0023
高知県須崎市下分乙470-1
電話：0889-40-0840
E-mail：sion@lutra.jp
HP：http://www.lutra.jp/

今後の展望
行政界をまたいで森林を広く利用するツキノワグマを保全し、かつ地域との軋轢を回避するためには、行政だけでなく生息地の剣山系を一体とした地域住民の理解・連携が不可欠である。今後は生息地域でツキノワグマの保全活動に関わる主体を増加させるための普及啓発を継続しつつ、地域の様々な立場の地域住民が参加する中長期的な保全アクションプランの作成が必要となる。